

立岩地区タウンミーティング

平成23年10月18日（火曜）

【市長】 皆さんこんばんは、野志でございます。今日は平日の夜間、またお仕事でお疲れの方もいらっしゃるのに、このように大勢集まっていただきまして本当にありがとうございます。タウンミーティングの受け入れをご快諾いただきました山崎区長会長をはじめ、役員の皆様方には本当に感謝を申し上げます。

このタウンミーティングはですね、私ちょうど昨年の今頃は選挙前ということいろいろな各地を訪問させていただいておりましたけれども、昨年11月28日にこの立場になりました。7本柱の公約、皆さんとのお約束を掲げております。「誇れる行政サービスで笑顔に」「誇れることばで笑顔に」「誇れるまちの安全・安心で笑顔に」「誇れる子育てで笑顔に」「誇れる福祉・医療で笑顔に」「誇れるまちの長所を活かし笑顔に」「誇れる地域の宝を磨き笑顔に」、この7本柱でございます。その中で一番に出てまいりますのが、「誇れる行政サービスで笑顔に」であります。松山市内には公民館の本館の区域で言いますと41の区域があるんですね。私と市の幹部、部長や課長、出向いて行こうと考えました。これある意味職員にとってはしんどいことなんですよね。そりゃそうです、市役所でずっと座って皆さんがお越しになるのを待っているのは楽と言ったら楽ですよ。そうじゃない、我々のほうから出ていこう、出て行って皆さんの声を伺わせていただこうと考えました。市長の任期は4年であります。48カ月、41地区でありますと1カ月に1回のペースでやろうと考えておりました。各地で皆さんとお話をさせていただいておりますと、やはり市政運営に大事な気づきがあります。おかげさまで皆様からも好評をいただいておりますので、これはペースを早めていこうと考えまして、ここ立岩で12回目の開催ということになります。今日の進行でありますけど、私のあいさつをさせていただいて、テーマ1、テーマ2、テーマ3と分かれております。まずテーマ1のように魅力についてみなさんに語っていただき、認識をしていただきます。それはなぜか、松山市41地区と申し上げましたけども、やっぱり各地で歴史があるし文化があるしで特徴があるんですね。この文化、歴史をしっかりととらえていただくといいまちづくりができます。この

4 1 地区の集まりが松山市ですから、各地が輝くと松山がもっと輝くということが言えます。ですので皆さんに魅力についてしっかりと認識していただくことが大事だと思っております。よく言うんです、「わしらのまちはたいしたことないわい」とか人間って過小評価してしまうんですけど、それは違うと。絶対に各地には魅力がありますから、しっかりととらえていただくといいまちづくりができます。そしてテーマ 2、3 は立岩地区の課題について教えていただくということになります。

さて、このタウンミーティングでありますけども、松山市全般のことがお話になります。特に皆さんにはこの立岩地区のことについて教えていただきたいんですけども、今日は各専門の部長、課長たちを連れてきておりますので自己紹介をさせます。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好龍彦と申します。このタウンミーティングの統括を行っております。そのほか所管事項といたしましては、窓口サービスの充実ということで市民課、支所、それから地域におけるまちづくり、人権啓発、消費者行政、こういった皆さんに身近な最前線の業務を行っております。本日はよろしく願いいたします。

【保健福祉政策課長】 皆様こんばんは、保健福祉関係を担当しております大濱でございます。本日はよろしく願いいたします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市整備部の白石と申します。道路、また公園などの建設及び維持管理など担当しております。どうぞよろしく願いいたします。

【産業政策課長】 こんばんは、産業経済部産業政策課の中西と言います。産業経済部では皆さんに身近な農林水産業の事業、雇用、経済、観光振興といった事業を所管しております。どうぞよろしく願いいたします。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは、生涯学習政策課の青木と申します。教育委員会では学校教育や公民館などを担当しております。どうぞよろしく願いいたします。

【消防局総務課長】 こんばんは、消防局総務課の岡本です。消防と地域防災を担当しております。よろしく願いします。

【市長】 以上6人でございます。最後に自己紹介をいたしました岡本課長はかつてレスキュー隊員でありましたように、それぞれが各担当であります。私は職員たちにもう1つしんどいことを言っているんですけど、このタウンミーティングはやりっぱなしにはしませんよ、聞きっぱなしにはしませんよということを言っております。やりっぱなしにすると、聞きっぱなしにすると楽なんです、ある意味。聞いたふりができる、それはしません。ここでお答えできるものはお答えをさせていただく。そしてですね、中には国と絡むもの、県と絡むもの、財政的なことがあるもの、そういうものはですねいったん持ち帰らせていただいて、必ず地区に返答を差し上げます。それはやはり国の現状がどうなっているんだ、県の現状がどうなっているんだ、そういったことを確かめて、そして決断をしてこういったことになりましたよということを、だいたい1カ月が目安になってまいりますけども、かならず返答することになっております。冒頭のあいさつを申し上げましたけれども、あまり固くなるとしんどくなっちゃいますから固くならず、ざっくばらんな議論をさせていただいたらと思います。今日は参加者としてとってもかわいらしいお子さん、私から2人見えております。これまで堀江や三津浜のタウンミーティングで中学生、13歳の方が最年少だったかと思うんですけど、彼女たちが最年少になりますね。今日は参加してくれてありがとう。今日は前向きな意見交換ができればと思っております。よろしく願いいたします。

【男性】 立岩地区は中世のひのき舞台に登場した豪族河野氏の発祥の地。400年続いた高縄山に広がる歴史、文化、緑いっぱいの地域であります。昔は林業が大変栄えた地域であります。今は山を持つとと言えば貧乏をふれて回るといような状況で、なかなかよそへ行って山があるとはいいがたいものがございます。標高986メートルの高縄山を私たちは宝の山と呼んでおります。高縄山の頂上にはブナの原生林もあり日本のブナ林の南限と言われております。また、渡り鳥の宿場町といわれる名所でもあります。その上に高知県沖を通る台風、また四国へ上陸しても高縄山が盾となり、被害も少なく生活用水も心配なく、緑豊かな住みよい立岩が私の魅力でございます。

【女性】 私は三重県で生まれて茨城県で育ちました。縁があつてこちらの大学に来て主人と知り合い結婚しました。海と関東平野で育っているため、周囲が山々に囲ま

れている環境は私にとってとても新鮮でした。立岩に16年間住んで思うことは周りの人たちの温かさです。何も知らない私にいろいろ話しかけてくださり安らぎを感じました。また、小学校や公民館活動では、地域が助け合い協力する姿を通して、とても力強く安心を覚えます。私自身伝統芸能である伊予万歳の一員として、また、松山市女性消防団の一員としてこれからも立岩の良さをアピールできるようにしていきたいです。最後に来年の愛媛マラソン2年連続の完走目指して頑張りたいと思います。

【市長】 山の話がありましたけれども、私も実家北条でございまして、先祖代々の山があって、私も小さいときに植えたことがありますけど、もう一時期と全然違いますね、今は本当に。私もどうしようかなと思うところがありますけれども。また本当に水が豊富なところですし、そして緑もあるし、確かに確かにと思って伺ってありました。そして今言っていたコミュニティがある、絆のつながりがあるっていうのはこれはもう何ものにも代えがたいことですよね。

3月11日に東日本大震災がありまして、やっぱり地域のつながりが大事だってそれから特に言われるようになってますので。立岩に伺うときにおそらく地域の絆がしっかりとできてるだろうっていうのは思っておりましたので、まず立岩はそれができているのは何ものにも代えがたいことだと思います。地域のつながりっていうのはいざ大きな災害が起きた際の助け合いの精神につながっていきますので大変素晴らしいことだと思ってます。

愛媛マラソンについては今年50回の大会ですので、「野志もどうだ」なんて言われるんですけど、このままの体制で突入すると多分42キロどころじゃなくて、4キロくらいで倒れるんじゃないかと思いますので。今年は2回目のスターターになりますけども、最高のスターターを果たしたいと思ってます。練習できたらちょっと走ってみたいと思うんですけど、そんな状況です。

【男性】 テーマの中山間地の活性化ということなんですけれど、まず市長さんの中山間地とか農業地帯に対する考え方を少しお聞きしたいと思います。こういう中山間地は過疎化が進んでおりまして立岩も高齢率、65歳以上の方が50パーセント近くで、50パーセント超えると限界集落と言われて10年20年先には消滅の危機になるんじゃないかと、今現在は非常に元気な地域なんですけども、この先のことを考えると非常に難しい面があります。それでこういう地帯はここもそうですけど農業主体に

行っております。それでこういう農業行うことによって生産物、農産物を生産しておりますけどもそれだけではなくて、いわゆる公益的な価値といわれているもの保水とか治水とかそういう目に見えないもので非常に立岩地域だけではなくて、広い範囲で貢献してるんじゃないかと。そういうことに対する評価の考え方をまずお聞きしたいと思います。

【市長】 はい、今ご発言の中に公益的価値ってあったんですけど、これ皆さんにぜひ覚えて帰っていただきたい言葉です。もう皆さんご存知の方多いと思いますけど、こういう中山間地域っていうのは私が冒頭申し上げたようにつつい過小評価する。うちには何もないわい、いう形でおっしゃる方もいらっしゃいますよね。そうじゃないんです。まず農地と森林って大きく2つに分けてみると、農地の場合は良質の水、空気を育ててくれる。そして多様な生物を育ててくれるところ。水源の涵養ができる、山から田んぼがあって水を溜めることによって下に流れて行って水源になる。また美しい景観が保てる。そして伝統文化が継承できるっていうところで自然環境が保全できる。そういう機能がまず農地にはあります。公の利益になっているんです。森林で言うと、これも水源になります。そして地球温暖化防止にもなります。そういう公益的な役割を果たしているっていうことになります。まちに住んどる人も、また中山間地域にお住まいの方も、そういう公の利益を果たしている場所なんだっていうのを認識してほしいという思いがありますまちの方から見てですね、あそこはこういう役割を果たしているんだって認識してもらうことが大事、皆さんもそれを認識してもらうことが大事だと思ってます。立岩ダッシュ村って皆さんのご協力を得ながらやっていますけども、立岩ダッシュ村も、まちにないものがここにはあるから子どもたちに来てもらって汗を流すことの大事さとか、しんどいけどもやり遂げたらこんないいことがあるんよとか、そういう場として立岩はふさわしいと思っているので立岩ダッシュ村、皆さんの協力得ながらやっています。ですので、つつい地域に何もないって言われる方いらっしゃるけどそうじゃない、公益的な価値を生み出しているところだと私は認識しておりますし、難しい問題が鳥獣被害の問題とか、またバスの問題とかいろいろあるんじゃないかなと思いますけども、そういう課題を皆さんの声を集め、皆さんと話し合いながら解決をしていきたいし、有害鳥獣のことなんかもバックアップをしていきたいと思っております。私の考え方はそんなところになります。

【男性】 市長さんの公益的生産とかそういう面に対する評価ありがたくお伺いしました。それで、これからいろんな方が発言されると思いますけれども、皆さんも立岩の方も市長さん言われたように、立岩はそういう大きな価値を見出してるんだということで胸を張ってこれからいろんなこと、いろんな要件もあると思いますけれど、構わず堂々とやっていただきたい。私から1つだけ願いたいのは、人口の減少が立岩にとって非常にネックになっております。それでそれを考えますと立岩小学校がありますけれども、その学校がずっとないと非常に人口の面から考えて危ういことになる。学校が統合されて小さい学校がいくつか集まって大きい学校作るという流れはあると思いますけれども、地域にとって学校というのはなくなってしまえば、今も少しずつUターンとかで若い人も帰ってます。それよりも出て行く人の方が多いんですけど、それでも学校があるということでそういう人の流れをとどめてる面が非常に強いので、学校の存続をまず第一に願いたい。確約はできないと思いますけれども、ぜひ前向きな発言をお願いしたいと思います。

【市長】 学校に対する私思っているのがあります。それはですね、これまでの私の20年の仕事の中で愛媛県各地出向いて、小学校がなくなることによってその地区のともしびが消えてしまったようになるっていうのをいつも見てまいりました。ですので学校っていうのはやっぱり地区の中心であるし文化の中心であるっていうのはよくよく分かっております。ですので、立岩小学校の場合は弾力化ってなってますよね。児童を市内全域から受け入れられるっていうのをやってきました。で、平成22年度は4名、23年度は7名子どもたちが弾力化で来てくれています。ですのでできるだけ地区のともしび、文化のともしびと申し上げたとおりなくなるっていうのはできるだけ避けたいと思っておりますので、そういう形でやっていきたいと思っておりますし、この間、立岩地区の体育祭に来させていただいたときに、ちょっとお話をさせていただいたんですけど、小規模校って中学に上がった時に、一概には言えないんですけど、大体中学校って大きい中学校になるんですよ、そこで中一ギャップっていうのがあるんです。小さい集団から大きな集団に来てしまったら、自分をどうやってアピールしたらいいんだろう、いうてそのアピールが上手くいなくてっていう中一ギャップっていうのがあるんですけども、これをできるだけ解消するために、スクールバスの運用を、例えば立岩から何か文化祭とかがあつて、中心の方に行くときにタクシー使っ

て行ったりするとお金かかりますよね、お金がかかるとついつい行くのがおっくうになってしまいますよね。そうならないためにも、松山市が移動に補助をする制度を作りました。小規模校であっても、中一ギャップに陥らないように、日ごろから交流ができる制度作りました、そういうようにできるだけ学校を残していきたい、そのように思っております。

【女性】 小山田には通学路という看板もないし歩道もないので、通学するときに危ないし、今治に抜け道があるから車も飛ばすようになったので困っています。

【市長】 今治への道っていうのは昔からある。最近できたんですか、何年前くらい。昔からあるんやけど最近広がって通りやすくなったのかな。

【男性】 農免道路。それ通って今治行く人が大変増えております。

【市長】 菊間の農免道路。それは何年くらい前に広がって交通量が増えた。

【男性】 4、5年前。

【市長】 通学路ってことを認識していないドライバーも。

【男性】 ほとんどです。

【女性】 子どもが歩いているのに内回りして、危ないところが何カ所もある

【市民部長】 それは県道のところですか。それとも道を渡るっていうことですか。

【男性】 菊間のほうに農免道路ができております。そんな関係で通勤者がすごく増えとるんですよ。それで、子ども通学の時間帯に非常に車が多くなっております。現在までは事故あんまりないんですけども子どもの事故があっても困るし。通学道は県道なんですけれども、それから菊間へちよどつながる道は市道なんです。それが農免道路につながってるんが逐次拡張はしていただいておりますけれども、離合がちょっと難しい道がかなりあります、1キロぐらいの間狭いのでできるだけ早く拡張していただきたいのが1つと、それから歩道もございませんのでできたら歩道も整備していただいたらありがたいと思います。

【市民部長】 道路のこと、通学路にかかることなんですけども、これは県道才之原菊間線のことですね。通学路というのは確認しておりますので通学路の状況を確認した後ほどお答えさせていただくということで構いませんか。事実関係今すぐ分かりませんので、我々も今聞いたばかりで責任ある回答できませんので、学校ともう一度通学路の状況と子どもの通学経路というのを聞いた上で、県道に問題があれば

県と協議ができないか、農道の関係であるんだったらどうやったらいいかということ
を踏まえまして、後ほど回答させていただくということでこの件については持ち帰ら
させて下さい。

【市長】 まず通学路認識してもらわないといけないですね。

【女性】 私たちは夏休みの自由研究で風早八十八カ所を回りました。そのときにス
タンプが壊れていたりなくなっていることがありました。なので直してほしいです。
市長さんに質問とお願いがあります。何年か前に北条北中学校の人たちが作った八十
八カ所の1つ1つのお寺やお堂の版画があるそうです。あれば見てみたいです。八十
八カ所を回ると記念のバッジがもらえたそうです。私たちも回ったのでもらいたいで
す。でも、今はないそうです。なので復活させて下さい。

【市長】 タウンミーティングに来るときに、ある程度予習はします。立岩ではどん
な課題があるのか、どんな状況であるのか、どんな特徴があるのかっていうのはある
程度事前には勉強させてもらいます。風早八十八カ所巡りについては、ちょうど勉強
できていたのである程度答えられます。これは明治の初めに20年の歳月をかけて当時
の猿川村の長老たちが、本当は八十八カ所実際に巡りたいんやけれどもお参りできん
方の為に、地元の有志の方が整備された。それで、途中で忘れ去られたようになって
たときがあるそうです。昭和61年だったと思いますけども、北条北中の子たちが版
画で描いた、その前に昭和50年に調査が完了して復活をしたと聞いてます。で、ち
よっと今スタンプ帳とかスタンプ台がちょっと忘れられてる状況になっているという
のは伺っております。

【市民部長】 それで現地を見せていただいたんですけども、大体お寺のお堂のとこ
ろに箱があって、その中にスタンプ台とスタンプが置いてあるんですね。これがそれ
ぞれの地域の人に非常に親しまれている時期があったそうなんですけれども、今それ
がさっき言ったようにバッジをくれるような奨励するところなくなって、中にはその
スタンプが壊れていたとか古くなったりとかそのスタンプそのものも押せなくなっ
ているという状況を調べております。確かにいいことだなって事前に勉強したときに思
ったんですけども、問題は行政が整備してぱっと渡してしまうと、また元のように寂
れてしまう。だからもう一度そのあたりはもし皆さんがやるっていうふうに、北条全
体のことですから、話し合いができれば行政もひとつ参加させていただこうかなと。

だから、まず一度北条地区の人で相談していただいて、公民館とか地区の区長さんとかいますけれどもそこで「よし、やるや」ってことになったら、行政も一緒に入らせていただこうかな。そしたらまた長続きする、また変わったイベントになるんじゃないかなと思ってます。

【市長】　そうですね。これは可能性がある話だと思うんです。距離数で言うと125キロあるそうです。今治の沖の大島の島四国ありますよね。あれ大体春のことです。あれも四国八十八カ所本当は回りたいんですけども、ちょっと回れんという方のために大島を四国となぞらえてつくりました。あれは3日間です。距離数で言うと、風早のほうで125キロあって回るとたぶん5日くらいかかります。ちょっと長いんですけども、大事なことはぽっと出じゃないんです、風早の八十八カ所巡りは。140年の伝統があるんです。この伝統を復活させると考えるとこれは先ほど部長も言ったように、行政がぽんと与えてしまうと、何でわしらが世話せないかんのぞね、みたいなことで廃れること結構ある。与えられるんじゃないくて、地元熱も高まってきたという形だったら、長続きはすると思うんです。ですので皆さんのほうで、これやったら良いんじゃないかとお思いになるんだったらですね、熱が高まってきたらぜひやられるのがいいんじゃないかと思ってます。今若い歩き遍路って増えてきてますよね。私も20歳とか30代入るくらいまでは別にお遍路さん回ろうとも思わなかったんですけど、今40も半ばになって、ちょっと落ち着くような年齢になったら女房と一緒に四国八十八カ所歩くとは言えないですけど、ちょっと車で回ってみたいという気がしてます。実際に私よりちょっと上で回ってる方も多いので、四国全体は行けんけど、まず入門編として風早八十八カ所回ってみようという方はいらっしゃると思うんですよね。ですのでできたら地元の方と一緒にやっていけたらなと思ってます。スタンプどういった状況なんですかね。

【市民部長】　地区によって違うそうです。スタンプそのものが薄くなって擦り減って消えてしまったりとか、箱そのものの文字が消えてしまったりとかあるんで、そのあたり直すのは簡単なんですけども、形よりもまず皆さんがそういうことを1回みんなやってみようという話し合いの場を一度我々と一緒にまたつくっていただいて、それでどうだろうという提案もさせていただきたいと思っております。それで公民館中心となるのか区長さんの場になるのかは分かりませんが、また我々のほうからも提案

もさせていただこうと思っておりますので、また皆さんのほうからぜひそのあたりの気持ちもお聞かせいただければと思っております。

【市長】 押し付けではないということですね。はい、一つちょっと私からお話させていただきたいのは四国八十八カ所と申し上げました。四国に市町村いくつあると思います、95なんですね。88割る95、市町村の数で割ると0.9何ぼなんですよ。ということは四国の市町村で1個も札所がないところは当然あるわけですよ。でもその四国の中でいちばん札所が集まっているところどこだと思いませんか。松山市なんです。8カ寺もあるんです。ということは昔から歩いてくるお遍路さんに親切にできる土地っていうのが松山って言えると思うんですね。そういう恵まれた土地にあるわけです。ですから風早八十八カ所、可能性は大いにあると思っております。もう1つ、私からなんですけども、これまでの20年の経験ですね、いろんなまちづくりを見てきました。花のまちづくり、今貫之山がありますよね、ツツジのお祭りがあります。みなさんが大変苦勞されてあのツツジを植えられたと伺っておりますけど、耕作放棄地がございます。そういうところで、例えば大洲市五郎の菜の花畑ですとか、三間町のコスモスですとか、旧の伊予三島の翠波高原のコスモスですとか、双海の水仙とか菜の花とかいっぱい花のまちづくりを見てまいりました。花って比較的軽いんです。ですからお歳召した方でも大丈夫ですね、比較的。そういうまちづくりもありますので、今貫之山あるけんいっぱいいっぴいでわしのところはええと思うよっていう考えの方もおいでだと思いますけども、耕作放棄地があるんだったらそういうまちづくりもありますよっていうのを申し上げたいと思います。

【男性】 小学校のグラウンドのトイレですけれども、地域でよく使うことがあるのでお年寄りなんかもたくさん来られます。そのときに和式なものですから大変苦勞されてるみたいです。できればバリアフリーにしてもらって洋式にさせていただきたいんですけれども。よろしくお願いします。

【市長】 地区の行事で使われるということは比較的グラウンドに近いところのトイレですかね。和式トイレばかり。洋式もあるんですか。

【男性】 グラウンドには和式しかないんです。体育館には障がい者用の洋式トイレもあるんですけど、実際に運動会とかそういうときどうしても近くで使いたいのと、地域でグラウンドゴルフですとか、そういうときに体育館をわざわざ開けるというこ

ともあれなんでできればグラウンドにあるトイレですけれども、そこをお年寄りが使えるようにしていただきたいです。

【市長】 はい。わかりました。これについては。

【生涯学習政策課長】 教育委員会ですが、校舎の例えばトイレを改修する、和式から洋式へ変えるとかいう場合は、ちょうど耐震工事をする場合もありますのでそれと併せて行うんですけれども、今回の立岩のグラウンドのトイレにつきましては校舎とは別ということで、和式トイレから洋式トイレに改修することにつきましては、小学校長から教育委員会学習施設課に要望を出していただくこととなりますが、本日のタウンミーティングでこういった要望が出てるということで、教育委員会と学校で協議をさせていただきますので、その結果を待っていただければと思います。どうぞよろしくをお願いします。

【市長】 今言っていたので、小学校の校長先生に言っていただくことないですから。こちらのほうから要望が出たということっておきますので。今耐震化と併せてということだったんですけれども、何故そういうお話をするかと言うと、せっかく改めても耐震化工事をするともた改めないかんことになるといけませんので、やはり我々も皆さんから大切な税金をお預かりしているわけですから、税金一回投入してまたそれを改めるってこと二重にするのはもったいないことですから、耐震化と併せてというのを考えております。今の場合は耐震化とはまた違う次元の話になりますので校長には改めて言わなくて結構です。こちらで教育委員会に言う形になります。今も確かに和式ほとんどなくなり、ほとんどとは言えんかもしれませんが。やっぱりお年寄りがする場合は洋式のほうが楽ですから。それは気持ちよく分かります。

【男性】 非常に平和なこの立岩地区。静かな美しい立岩地区でございますが、現在は非常に高齢化が進んで農業にしても高齢の方が一生懸命頑張っておる状態でございます。その中で先ほども道路の話がございましたが、この北条玉川線は本当に立派にできて、ちょっと傷んだらすぐに修理をして直して下さっておるような非常に立派な道路でございますが、非常に残念なところ市道に関して若干いろいろと傷みのひどい箇所が今現在出ているような状態でございます。私も農業やっておる関係で儀式から小山田に集荷場がございます。そこへ軽トラで運送はするんですが、非常に道の傷んだ柱も抜けておるような状態の箇所もございます。市長さんご迷惑と思いますが、ひと

つできれば高齢者が安心して車が通れるような状態をつくっていただきたいと思います。失礼します。

【司会】 はい、ありがとうございました。

【市長】 はい、まずご迷惑とか思わなくていいですよ、大丈夫です。もっとですね、道路のことだと言ってもらったら道路管理の担当がちょっと来て、道路のパトロールカーもありましてできることはぱぱっと直したりできますので、迷惑とか思わなくていいですよ、大丈夫なんです。どうぞ、はい。

【都市政策課長】 都市整備部です。今市長が申しましたように市道の関係につきましては道路管理課がごさいます。緊急的に道路が悪い場所、例えば穴があいていたとか、舗装がはげていたとかいうような所であれば、その日の内に対応できると思います。また今現在、松山市内を3班に分けてパトロール行っておりますのでどんなことでもまた言っていただければ対応できると思います。なお、先ほどの全体的に舗装が悪い部分につきましては交通量とか松山市の市道延長1,700キロごさいますので優先順位を考えながらやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

【市長】 ちなみに渡部さんどのあたりですか。地図があれば。

【男性】 儀式と小山田線ですね。市道で。池がごさいます。その池のちょっと下の方です。ずっと割れて、下がってくるような状態でごさいます。

【市長】 分かりました。後ほど、改めて確認をさせていただきます。後で教えてください、よろしくお願ひします。

【男性】 お金のかかることお話をさせていただいてもいいような感じになりましたのでちょっとお金がかかる話かもわかりませんがお話をしたらと思います。

立岩公民館を建て替えていただける予定があるかどうかというのをですね、ここ避難地になってると思うんです。先日の台風、奈良辺りはすごくたくさん雨が降りました。ここも昭和51年でしたか、前の橋、沈下橋になるんじゃないかというくらい雨が降りまして上をパシャパシャ水が越えました。それを考えますとこの立岩公民館大丈夫なんかなと思います。それで今日もたくさんの方が来ておられますけども、もう使う会場広い会場というのここしかありません、立岩では。やはりこれから老人が大変増えますので私も老人の一人です。もう10年したらここにいる人みんな老人クラブの人がほとんどだと思っておりますけどもそういう状態ですので。

もう一つお願いとしまして公民館ができないんだったら、2階に上がれるエレベーターをぜひ付けていただきたい。もうお年寄の方はここに上がって座らなかつたら会議に出られないんですよ。もう荷物を持って上がるっていうことができません。特に老人クラブで世話する方は体の不自由な方はできません。階段上がったり下りたりしなきゃいけませんので。

【市長】 まず、全体的なお話から。公民館については特に就任してから市民の皆さんの安全・安心が第一という考えをもとに行動しております。小学校、中学校は長時間過ごすところ、また、いざというときの避難場所になる所、公民館もしかりだと思えます。公民館や小中学校の耐震化を前倒して、限られた予算ですから毎年投下できる金額って限られてどうしても先延ばし、先延ばしってなってますけど、選択と集中でこれを先にやるということで公民館、小学校、中学校の耐震化を前倒して進めているところです。そこも順序をつけないといけません。耐震化診断をして耐震の点数の悪いものから先にする形になります。そのような順番の中で耐震化工事を進めているところです。全体的な話続けますとエレベーターについては、今3階建の公民館が松山市内にありまして、3階建でもエレベーターが付いてないところがあるんです。これは私去年の今頃、各地回ってるときに知ったんですけども、3階までおじいちゃんおばあちゃんが階段昇っていく公民館があるんです3階の大広間があるのにエレベーターないところがあるんです。ですのでちょっと申し訳ないことに3階建てのところからエレベーター先にしなければならぬというところがございます。ちょっと全体的なお話をさせていただきました。ちょっと補足してあと私からまたお話を添えます。

【生涯学習政策課長】 今、小中学校の耐震化を進めておりますが、公民館につきましては、耐震性能を満たしてない公民館8つございましてそれを今年から28年にかけて行うようになっております。そういった関係もございまして、まず耐震化工事を優先で進めてる現状でございますのでご理解をいただきたいと思えます。

【市長】 8つ言ってもらっていいですか。わかります。

【生涯学習政策課長】 今年耐震化行うのは東雲なんですけど、東雲公民館、荏原公民館、泊公民館興居島ですね、それから桑原公民館、北条公民館、雄郡公民館、余土公民館、番町公民館の順番となっております。

【市長】 耐震の危険度の高いところからやらせていただくことになります。よくありますのがエレベーターのことと同時に、トイレのことですね。昔の公民館って男女のトイレが一緒になって、今、別の所が多いですけども、スペース的な問題があって昔は男女が一緒になってところが多いですね。「ちょっと気づまりやな」というところがあるとそれとやっぱり和式が中心でしたので、「ちょっとしにくいな」というところがありますけども立岩はどんな状況ですか。

【男性】 立岩もうばっちりできてます。ウォシュレット。

【市長】 立岩できてる。トイレは。

【男性】 立岩、一番進んでます。

【生涯学習政策課長】 耐震化の関係で、立岩公民館は昭和57年に建築ですので56年以前の建物につきましては耐震化をしないといけないという、それには該当しませんので。すみませんちょっと説明不足で。

【市長】 昭和56年までの建物と57年でちょうど線引きをされるんですね。で、57年以降だから新たな耐震基準で建てられている。

【生涯学習政策課長】 はい、満たしておりますので耐震工事は必要ございません。

【市長】 私から松山市の財政のことについてお話させていただきますが、家計と一緒になんです。家計と一緒に出て行く方と入ってくる方がありまして出て行く方、歳出と言います。円グラフを書くと一番わかりやすいんですが、一番大きなウエイトを占めるのが民生費いわゆる福祉にかかるお金、全体の40パーセントを占めます。それが前の年から50億円増えました。そしてその中の生活保護費が前の年から20億円増えました。で、松山市っていうのは中四国の都市の中では比較的財政は良いといわれております。一番が徳島県の阿南市。これ日亜化学っていう青色発光ダイオードで有名な会社がありますので阿南市の財政が一番良いつて言われてます。松山市二番目って言われてます。でも、昔の高度経済成長の時代だったら良かったんです。どんどん日本の経済全体も良くなって税金もどんどん入ってくる世の中だったら良かった。でも今、国の借金がおよそ一千兆円あります。一千兆円割る一億人で割り算したら一人なんぼ抱えてるかはおわかりいただけだと思います。で、国庫支出金とか地方交付税交付金とか国からお金が回ってくるんですけども、国が借金をそんだけ抱えてますから当然地方に回ってくるお金が増えるわけがないです。で、もちろん松山市の財政っ

ていうのはどんどん膨らむわけがない。さっき申し上げたように50億増えたらどっかで50億削らないといけない。どんどんどんどん下り坂です。生活保護費も20億増えたらどっかで20億削らないといけない。市長が人気とりのために、わかりました、じゃあやりましょう、これやりましょう、あれやりましょう、その時は人気とりできるかもしれませんが。わかりました、税金安くしましょう、その時人気とれるかもしれない。でもそれやったら将来の子どもや孫につけを残すだけなんです。自分の生まれ育ったこの松山、実家のある北条。将来の子どもや孫につけを残したくはない。ですから選択と集中で今何をすべきなのかを考えながらやらないといけないのが今の各自治体の首長の置かれた厳しい判断をしなければならないところだと思うんです。ですので本当言うたら、わかりました、やります、って言ったらすごく簡単なことかもしれないんですけども、それはなかなか難しいというのをご理解いただけたらと思います。でも、皆さんの声を絶対言ってほしいんです。皆さんに声をあげて欲しい。皆さんの声を活かしながら市政をしていくのがやるべきことだと思いますので遠慮しないで言ってほしいと思います。

【男性】 この前に駐在所があるんですけど、何年か前お巡りさんがおらなくなりまして、立岩地区は高齢化が進みまして防犯上の観点からも駐在所におまわりさんを置いてほしいと思うんです、いっぺん防犯協会の会がありまして、そのときに言いましたら、もうこれは決まっていることじゃけんどうにもなりません、県のほうで決まったことじゃ言われましたけん、何か置いてもらえる方法ないですか。

【市長】 なるほど。ちょっと経緯を教えてくださいんですけど。

【男性】 北条交番のお巡りさんが1名減になって立岩駐在所のお巡りさんがそっち出て行ってここが不在になった。

【市長】 これはもう、県警にお願いするということですよ。

【市民部長】 防犯協会を担当しておりますが、こちら、広報委員が防犯相談所長になられていると思うんですけども、日頃で一番困ることはなんですか。

【男性】 高齢化が進んで、お年寄りが大勢おられるようになりまして、ちょっと来て何かする言うても、北条交番直通電話おいてるんですけど、そういうのもわからないし、ここにおいでたら立岩地区をパトロールしていただいたり、それもないようになっとるし、ちょっと不便な思っ、防犯上の面からおいでたらどうかな、置いても

ろたらどうかなと思まして。

【市民部長】 具体的にこういう心配がある、こういうことが困っているというのを、防犯協会を通じて、松山西防犯協会があるんですけど、具体的に困ったことを要望していただきますと、パトロール、巡視の回数を増やしていただくとか、非常通報時の電話機の設置とか相談に乗っていただきますので、直接でも構いませんし、市民参画まちづくり課にご連絡いただいてこういうところが困っていると防犯相談所長と一緒に相談していただきましたら、具体的な対応がとりやすいと思います。ただ、今、行政改革、国も、県も同じなんですけど、かなり人員削減を図っております。これからどんどん増やすということは実際には難しいかもわかりませんが、それに代わる施策はとっていただけるかもわかりません。先ほど市長が申したように、どんどん声あげていただきたいと思います。

【市長】 やっぱり声あげたほうがいいと思いますよ、それならこっちに振り向けてみようとか、それは声を受けて県警も判断していくと思いますので、声をあげられたほうがいいと思います。

【女性】 皆さんおっしゃっているように立岩地区も高齢化が進み、それと3.11の震災後、自主防災、自主防災と叫ばれている中、立岩地区放送が全くなく、私の住んでいる小山田地区も小山田全体の放送が壊れて、かなりの費用がかかるということで放送がなくて、全体の消防放送は北条市内からあると思いますけど、地域の放送がないから、何があるというのが回覧とか見るの忘れるとないことが多いので、放送設備を新たに設けてもらえるのか、援助してもらえるのか、教えてもらいたい。

【市長】 今おっしゃったのは、防災面での放送。

【女性】 防災面ということもないんですけど、地域全体、何があっても、たとえば今日はこういうことがあります、運動会があります、何がありますというのが全部放送がありよったわけです、農協の放送なんかもあったんで、聞くことがあったんですけど、もうここ2、3年は放送がないような気がします。

【市長】 それはなんでないなったんですか、機械が壊れて。

【女性】 機械が壊れて、たぶん費用が。私住んでる小山田地域も、結局費用が掛かるということ。

【市長】 今、思い出しました、北条実家ですから、農協の放送ってありましたね。

いまデジタル防災無線をね。課長どうぞ。

【消防局総務課長】 デジタル防災行政無線は、平成28年5月までにデジタル化しなければならないことから、改修工事を今年から3カ年ですることとしております。北条地域全体で防災行政無線が80カ所あり、松山市内にも122カ所ありまして、北条地域から順次デジタル防災行政無線に切り替えるようにしております。そういった災害専門の放送設備は80カ所整備しておりますが、公民館放送、地域放送のような緊急を要さない放送設備については、消防局では整備はしておりません。なお、山間部でありますことから一部で孤立した場合も衛星電話を立岩米之野地区や安居島などに5カ所設置している、防災上の連絡設備については今も整備している状況です。公民館放送、農協放送のほうは帰って関係課に確認してみます。復活をさせてほしいということでしょうか。

【女性】 全体防災の放送はあっても、この前の3月みたいに避難してくださいというときに地域の放送があれば心強いと思います。

【市長】 避難のことについてはデジタル防災無線で。

【消防総務課長】 避難情報、気象情報等はすべて無線のほうで放送できるように、消防局から一括でもできますし、集会所からでもできる形になっています。

【市長】 防災のことについては今新しい設備を3カ年計画でやりよりますので、これはいいのができます。

【消防局総務課長】 防災行政無線の主な目的が災害時などの非常用の放送設備ですので、地域のコミュニティ放送と、デジタル防災行政無線の放送を兼用して使うということは基本的には好ましくないものです。

【女性】 兼用というか、地域として放送の設備を設けてもらえないかという提案です。

【市長】 はい、わかりました。二面あると思います。防災面とコミュニティ放送みたいな形ですかね、いうなれば。

【市民部長】 小山田は集会所ございますか。

【男性】 集会所4つあります。

【市民部長】 小山田の中にあるんですか、そこには放送設備あるんですね、そちらのほうで一般の放送はされてるんですか。

【男性】 説明がおかしかったかもしれませんが、小山田地区、立岩地区いろいろ、立岩地区のコミュニティ放送も今運用されていません、そうしますと、立岩地区で何かがあるというときに、皆さん書類でしか見ることがないんです、以前は、例えば健康診断があれば健康診断がありますということを放送してくれました。それが立岩地区も壊れております、小山田も4つ集会所ありますけれど、個別はできます、でも一斉放送ができません。小山田の公民館としての放送ができない、これも大変申し訳ないんですけど、お金を出せば直るんですけどなかなか大変なので、市長さん援助してもらえませんか、こういうことでございます。

【市民部長】 それにつきましては、公民館とか集会所の問題になってくると思いますので、持ち帰って、我々十分調査してからお答えさせていただくということで、ご容赦いただいたらと思います。正確なお答えを用意させていただきます。

【市長】 必ずお答えさせていただきます。

【男性】 地域コミュニティの放送は、ぜひ公民館に設置していただいたらと思います、農協じゃなくて、公民館が主体でできるようにお願いします。

【男性】 今の放送の件じゃけど、立岩地区は各集会所から地域に放送できる設備もついとるんですよ、僕とこの地区も、集会所から僕とこの地区へ放送できるようになっとるんですけど、そこの機械が壊れています。点検に来られたおりにこうこうじゃ言うたら、一応市のほうにあげときます言うて、それから何年か経ってます。返事は全然ありません。

【市民部長】 それは調べてからお答えします。

【男性】 非常に人口が減っているんです、高齢化で減っているんですが、残念なことに鳥獣害、イノシシのほうは非常に増えております。イノシシ、鹿、ぼちぼち猿も出始めた状態ですけど、農作物作るにしても電柵するか網をしなかったら作れない状態になりつつあります。現在も電柵補助等いただいているんですけど、もっと強硬にやっていただいて、できるだけイノシシ等を減していただくよう行政のご協力もお願いしたいと思います。ただ我々も被害受けるぎりでは面白くありませんので、イノシシを活性化に少しは利用しようかということで、立岩の産直市でイノシシうどん販売しておりますので、またぜひそちらのほうもご賞味いただいたらと思いますので、よろしくお願いします。

【市長】 イノシシの問題は、中島に行ったり、また山間部に行きますと必ず言われます、ですので私もこれやりたいと思っております、拡充をしております。どういうふう
に拡充をしているかという、いま、イノシシ1頭につき2万円、猿1頭につき3万円を捕獲に対する奨励金ということで出してたんです。平成22年度で言いますと、イノシシが450頭900万円、猿が39頭117万円、合計1017万円出しております。鳥獣害防止施設、電気柵やったり、風を防ぐネット鳥を防ぐネットというのをつくっております、これを松山ブランド支援とか品種転換とか合わせると合計44,101万円出しております。そんな状況だったんですけども、結構いりますでしょう、イノシシ対策、猿対策、カラス対策ですけどもこれを防護柵を設置をする支援を拡充しました。例えば販売農家には事業費の3分の1これ上限がありますけど、共同で設置した場合は、より広いとができますので、事業費の2分の1を補助することにしています、この場合、上限50万円です。捕獲体制を強化しなければならないということで、農業されてる方が狩猟免許取得する際に経費がいりますから予備講習費と受験料合わせて12,700円いるんですけどこれの2分の1を補助させていただくことをしております。今年3月に松山市鳥獣被害対策協議会を立ち上げまして、今年度、鳥獣被害防止計画をしっかりとしたものを作りますので、更なる対策を検討していくところです。これ、しっかりやっていきます。イノシシはいっぺんに子どもいっぱい生むんでどんどん広がってしまう、中島でも、イノシシ泳ぐので、イノシシおらんかった島にも来てしまったというのもありますので、中島行くたび、山間部行くたび言われますので、県とも連携しながらやっていきます、北条、玉川と接してま
すけど、わしは北条のイノシシやけん玉川にはいかんわい、そんなことないですよ、広域的に連携しないとイケませんので、県とも協調しながらやっているところです。

【産業政策課長】 最近の新聞にも以前200人程度で推移してた狩猟免許の取得が、いろいろな施策の効果が出たのか県全体でもかなり狩猟免許を取得されてる方増えているというのが載っておりました、やはり農家にとってはイノシシ災害、猿の被害甚大な被害になっておりますので、今後とも県あるいは市町とも連携しながら対応していきたいと思っております。

【市長】 味のことで言いますと、イノシシうどんのことでありましたけれど、この間花園町で「花園町フードストリート」という屋台やってみたらおかげさまで好評だ

ったんです。その中で、愛媛だったと思うんですけど、イノシシの肉のから揚げ出してるところがあって食べてみたらおいしかったんですよ、上手に作ってました、そんな活用方法もあるなと思っていたところですよ。ですので、これ引き続きしっかりやっていきたいと思っています。カプサイシン、唐辛子をしみこませた札を畑にぶら下げておくと、3カ月くらいは効果があるということも聞いたことがありますので、そんなのも含めてどんどんやっていきたいと思います。

【男性】 先ほどから出ています防災無線の件なんですけれど、もともとは北条市とJAが共同で放送設備を北条市全域につくりましたものでございます。そのあと防災無線と兼用になりまして、JAも両方使っておりました。そののち修理費ものすごくかかりますんで、JAが手をひきましたので防災無線だけになりました。滝本地区では地区の放送は防災無線のところまで線でいまして現在放送することができております。ただ先ほどから話が出ておりますように、地区地区の施設が傷んで、小山田地区さんなんかもう放送ができないということなんです。それを昔のようにせいというのは難しいと思うんですけど、できたらその修理代を少しでも補助できないかというのが一番の身近な願い事だろうと思います。ある地区で直したのが8万いったという地区も私の耳に入っておりますので、そのあたり少しでも地区が軽減できるように今後協力いただけたらと思います。最後にもものすごい宇宙に行くような夢の話なんですけど、先程来、子どもが減ったとか、立岩も私らが成年前くらいですと1,700人くらい人口おりました、現在は1,000をちょっと超えるくらいのところですよ、それで私声をかけましてですね、こんなに来てくれたんですね、人数にしますと、たぶん16人から18人に一人は来てるんですよ、これだけの人が来られたということは素晴らしい地区なんです。それで、学校の話出てましたけど、下のほうには市営住宅、県営住宅たくさんあるんですけど、立岩の学校周辺に5戸でも10戸でも市営住宅を建てていただいて、子育て中のご両親、若い方に住んでいただいて、5年間は家賃をただにしますよというくらい思い切ったことやっていただきまして、ただ子どもさんは立岩小学校ということで、宇宙行くような夢の話なんですけど、できたら下の地価の高い坪20万30万ところに建てますと、家賃でいいますと2万と思えますけど、立岩ですと地価が安いので、2万のところ5,000円でもいいかなと思いますんで、交通もよくなっていますので、ひょっとしたら立岩にも住もうという方

おるかもわかりませんので、頭の隅に置いておいていただいたらありがたいと思います。それから市長さんよくご存じのように、立岩には5月つつじ祭り、8月夏祭り、今度は11月3日に文化祭ということで3大イベントがございます。市の方とも始まる前にお話をしとったんですけど、あまりこの辺の地形を知らない方が多いので、時々休みの日にはぶらっと散歩なりお花を見るなり来ていただいたら幸いかと思います。長々どうもありがとうございました。

【市長】 私も思いは同じなんです、やっぱり、空気のいいところに住みたい、お子さんをそういう環境の中で育てたいという方おいでだと思います。確かにほかの地区でも言われたことあるんです。市営住宅建ててくれないか、その自然で育った木を使って建てて、人口がちょっとでも増えて、その地区の魅力がわかってもらえる、そういうことができたらいいな、同じ思いです。でも難しいところがあるのは、絶対に住んでもらわんといけないというところがあるんですね、税金を投入して土地取得しないといけない、建物建てる、維持管理がいる、いっぺん建てたらずっとそれをやらないかん、空き家になったら途端にだめですよ、せっかく建てたものを空き家になつとるやないか、まずそのニーズをしっかりと把握しないといけない、ですから、絶対に住んでもらえますという確証が取れば、次の段階に行くというのは重々ご理解のところだと思います。今そんなところでたちまちできないかな、なかなか難しいかなとは思ってます。でも私結構あきらめが悪いほうで、これはいろいろな時期時期をとらえながら、いろんな施策の中で各地各地がかがやく構成を考えていきたいと思っています。思いは一緒です。立岩って素晴らしいところだと思うんです、絆があるし、都会では自然を復活させようと思ったってできないじゃないですか、それがあるんですよ。今日、外へ出て見上げようと思いますけど、すごく星がきれいだと思うんです、都会では無理な話。そういう目に見えない宝物がいっぱい詰まっているのが立岩。鹿島、渥美清さんが好きだった場所、全国津々浦々行かれたフーテンの寅さんが好きだった場所、それは作家の早坂暁さんとの関係で鹿島に何べんも来られとって、全国いろいろいかれている渥美清さんが好きだった場所、その鹿島が今活かせてるかって言ったらそうじゃない、土壌が崩れやすいので昔は一周できた鹿島ですけど、一周できなくなった、そんな状況がある、でも、渡船の料金をちょっと下げた、駐車場の料金をちょっと下げたりしたらお客さんまた来てもらえるんじゃないかなと思って、

今年夏休みやってみました、渡船の料金下げたら26パーセントお客さん増えました、駐車場の値段下げたら52パーセントお客さん増えました、夏休み、一周回れん代わりに周遊船毎日出してみました、これ1,600パーセント、16倍になったんですお客さんが。市長として皆さんと一緒にやらないかんことは、地域の宝を磨くことなんです、マイナス思考になってはダメです、うちのまち何もないわいと思っただめです、皆さんがプラス思考になってもらって、それぞれの地域の宝を見つけていただいてそれを磨くことが大事なことです、一緒に地域の宝を磨いていきませんかということ、最後に述べさせていただきます。今日出たご意見は必ず持ち帰らせていただいて、1カ月が目安になりますけれど必ずお返事をさせていただきます、本当だったら、やりましょうと言えたらいいと思うんですけど、将来の子どもや孫にツケを残すことはできませんので、選択と集中でやらざるを得ない現状があります。今日はほんと、立岩の人口から考えますとたくさん集まっていただけだと思っております、1時間半意見が途切れることなく、大変ありがたく思っています。これからはしっかりとしたまちづくりやっていきたいと思えます、行政だけではやることは限られます、皆さんと力合わせて進んでいきたいと思えますので、今後ともよろしく願いいたします、ありがとうございました。

(拍手)

— 了 —